

平成 29 年度 第 5 回 横浜市現市庁舎街区等活用事業審査委員会 議事録	
日 時	平成 29 年 8 月 8 日 (火) 15 時 00 分～17 時 00 分
開 催 場 所	横浜市庁舎 5 階関係機関執務室
出 席 者	委員 7 名：岸井委員長、治田副委員長、足立委員、石川委員、国吉委員、西田委員、野原委員 事務局（都市整備局）： 薬師寺局長、高瀬都心再生部長、黒田都心再生課担当課長 ほか
欠 席 者	矢ヶ崎委員
開 催 形 態	非公開
次 第	1 関内駅周辺地区リノベーションブック（教育文化センター跡地版）（未定稿）について 2 教育文化センター跡地活用事業の提案審査（案）について
概 要	<p>議題について事務局から資料の説明をした後、委員による協議を実施（主な発言要旨）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○リノベーションブックの名称に違和感がある。本事業を核にして、あるいは現市庁舎街区とタイアップして、この地域全体を変えていきたいという市のメッセージが伝わりづらい。 ○リノベーションブックと募集要項との関係や位置付けが曖昧で、全体像として分かりにくいので、再度整理する必要がある。 ○リノベーションブックの中で、なぜまちづくりの方向性を「国際的な産学連携」と「観光集客拠点」としたのか、どういったまちの未来に期待しているかという市のメッセージを示すべき。 ○教育文化センター跡地は、関内・関外全体、横浜都心臨海部全体の大切な計画の一部であり、今後を担っていく位置づけにあることを明確にすべきである。 ○市が関内・関外地区を観光のまちにしたいと望むのであれば、地域の人や市が見ている地域の課題を示すデータをリノベーションブックに記載すべき。 ○募集要項の中身の、「事業提案の内容」と「公募土地の計画条件」の内容が重複しているので、内容を整理して提案者に分かりやすく記載した方がよい。 ○審査の採点方法がもう少しシンプルにならないか。 ○審査項目に入れる内容は横浜市としての考えを明確にすべき。 ○審査項目として、プロジェクトの全体の戦略となるコンセプトがあった方がよい。 ○土地評価額については、地域活性化等に係る民間へのリクエスト内容と整合的・論理的な形で設定し、官民の適切なリスク分担の中で、魅力的かつ持続可能な民間提案が寄せられるよう配慮すべき ○提案者が意図を読み取って素晴らしい提案をしてくれるよう、リノベーションブックを活用しながら審査のポイントを相手に伝えることができているか、次回までに整理していただき議論したい。 <p style="text-align: right;">以上</p>
資 料	<ul style="list-style-type: none"> 1 議事次第 2 委員名簿 3 「関内駅周辺地区リノベーションブック：教育文化センター跡地版」の未定稿 4 教育文化センター跡地活用事業 提案審査（案）について